黒松内小学校　学校だより　令和５年度　６月号

ぶなの里

黒松内町立黒松内小学校　令和５年６月２２日発行
TEL　0136-72-3023　　FAX　0136-72-4601

≪ 教 育 目 標 ≫

ブナ北限の里を愛し，
たくましく未来を拓く
子どもの育成

かしこく　やさしく　たくましく

三笘の１ミリ

校長　荒 木 俊 行

先日の運動会では、２度にわたる延期で平日の開催となり、せっかく楽しみにしていたのに･･･という方も多かったのではないでしょうか。急な日程変更にもかかわらず、皆様の御協力のおかげで何とか開催できましたことに感謝いたします。ありがとうございました。子どもたちの振り返りの中でも「全力で」「最後まで」やりきったと達成感を持っている子が多く、とてもうれしく思います。

さて、先日のキリンチャレンジカップでは第２次森保ジャパンが初勝利をあげました。３月の試合では、なかなか結果に結びつきませんでしたが、今回は快勝です。今後どう成長していくのか楽しみです。あの惜しくもベスト８入りを逃したものの、日本代表の活躍もあり何かと話題となったワールドカップから半年。今でも印象深いのは、やはり強豪国スペインとの戦いで、ライン際ぎりぎりで逆転ゴールをアシストした三笘薫選手のプレーです。テレビで見た瞬間、ラインを割ったなと思いました。実際、審判もそう判断していましたし、あの「1ミリ」を判定できる人はいないでしょう。あのときＶＡＲ（ビデオ・アシスタント・レフェリー）がなければ「三笘の1ミリ」は生まれなかったに違いありません。もちろんそれだけではありません。やはり見事だったのは三笘選手があそこまでボールを追いかけ、あきらめなかったところです。これは間に合わないだろうな…と思うタイミングでしたが、三笘選手にはそんな思いは一切ありませんでした。最後まで諦めず、執念で折り返しました。もし、ほんの少しでも走り出すのが遅れていたら…。もし、足を伸ばさなかったら…。もし、走ることをやめていたら…。もし、ほんの一瞬でも手を抜いていたら…。どれか一つでも当てはまっていたら、あのゴールはなく、試合の結果も違っていたかもしれません。彼は一切あきらめず、自分の力を出し切ったのです。だからこそ、論議になったとはいえ、世界中で賞賛されたのです。そしてその後のプレミアリーグでの活躍も素晴らしいものでした。

私たちには、彼のあのドリブルはできません。でも特別なスキルがなければいけない、誰よりも優れていなくてはいけないということではなく、自分なりにその時にできる精一杯の力を出すことで、一歩前進できたり、周りに認められたりするのです。手を抜いたり、甘えたりすることは信頼をなくしますし、なにより自分の成長を邪魔します。

子どもたちには、今回の運動会に向けた取組で学んだ、最後まであきらめずやりきることを続けていってほしいと思います。

そして、私たち教職員も、子どもたちの「やりとげた！」のため、絶えず取組を振り返り、「やりっ放し」にすることなく、今目の前の子どもが本当に必要なことは何かをしっかり見定めながら、成長の後押しをしてまいります。

１４０周年記念　黒松内町立黒松内小学校　大運動会

５日（月）、１４０周年記念黒松内小学校大運動会が行われました。グラウンドに全校児童が集まって行う運動会は数年ぶりとなりました。今年のスローガン「限界突破！！～心を一つに、勝利を掴み取れ～」に向かって、全校児童がそれぞれの目標に向かって頑張る姿が光っていました。

１年生８名は、初めての運動会でしたが、臆することなく元気いっぱい練習の成果を発揮しました。６年生は、最後の運動会、持ち前の優しさを生かして下級生に優しく教えたりリードしたりする様子がみられ、あたたかい気持ちになる場面がたくさんありました。

延期の対応に関わっては、町教委や役場、消防等のご支援・ご協力をいただき、本校の児童の活躍の姿を地域や保護者の皆様へ披露することができました。また、前日の会場準備や当日の運動会の運営に関して、ＰＴＡ会員の皆様には、ご理解・ご協力いただきありがとうございました。町民の皆様に支えられた１４０周年記念黒松内小学校大運動会、児童にとって思い出に残る運動会になりました。

全　校　朝　会

７日（水）の全校朝会も、数年ぶりの集合型の朝会となりました。児童会役員はじめ、各員会の委員長は、取り組んでいることや気を付けてほしいことを話しました。放送委員会からは、「去年とは違って、朝の放送やクイズやテレビ放送やコントなどをやって、皆さんを楽しませます。」というお話がありました。コロナ禍に経験できなかったことが、徐々にコロナ前の日常に戻り、児童の学校生活にも活気が戻ってきています。

よりよい人間関係を築くために

児童が、安心して学校生活を送るために、本校では「黒松内小学校いじめ防止基本方針」を教職員で共有し、いじめのない学校づくりに努めています。「いじめを許さない、起こさない」という環境を整え、児童が安心して生活を送るために、全職員が本方針の基本認識に立ち、いじめの積極的認知と早期からの組織的対応に取り組むことを基本的な考えとしています。

今回実施したいじめアンケートの結果、「いやなおもいをしたことがある」と答えた児童は２９名、学校としていじめを認知した児童は９名となりました。いじめアンケート実施後は児童個人面談を行い、対話を通して児童の困り感に寄り添い、日々の指導に生かしております。また、子どもの変化等に気付いた場合は情報を共有できるよう、教職員間でのコミュニケーションも大切にしています。今後も、継続して、いじめの未然防止や早期発見に努めるとともに、子どもと教職員の信頼関係づくりや様々な教育活動における自己有用感の育成を進めてまいります。

いじめは、学校、家庭、地域、行政等が相互に連携協力し、社会全体でいじめの問題を克服するという環境づくりが大切です。保護者の皆様におかれましては、心配なことがありましたら、学級担任や本校教職員に遠慮せず相談してください。また、困っている児童自身が、ＳＯＳを発信できるように「子どものいじめに関する相談窓口」も活用するようお願いいたします。